



理事長 森 勉

新型コロナウイルスとの長く過酷な戦いの影響で偕行6・7月号が合版になりました。平成は戦後の昭和が築いた豊かで平和な活力に満ちた社会の恩恵を享受しながら繁栄を謳歌しましたが、社会の成熟は停滞と退廃の始まりであり今回の事態により政治・経済・文化等全般に渡って制度疲労が露わになりました。超高度情報化・自動化社会の実現、激烈化する自然災害・ウイルス等への対処、わが国特有の課題であるグローバル化の中、自立した普通の国家への脱皮等その速度・方向は定かではありませんが静かな変革が起きる予感がします。

それはさておき6・7月に共通する梅雨は日本列島の大部分、大陸の揚子江流域沿岸部、朝鮮半島の南部等の東アジア特有の雨期です。関東地方では例年梅雨入りが6月10日、梅雨明けが7月20日前後であり連日雨が降りジメジメした鬱陶しい負のイメージですが、私が育った山陽地方では田植えの水を確保するため極めて重要な季節です。わが国の気象の特性は温暖湿潤であり、美しい四季をもたらすと共にその代名

詞とも言うべき梅雨は、弥生時代以来の日本人の魂の故郷である水田稲作に恵みの雨を与え豊穡を約束してくれます。

私が子供の頃は苗代、田起し、しろかき、田植え、稲刈り、稲架、脱穀、籾摺り、精米等弥生時代以来の、人々が協力し助け合う水田稲作が行われていましたが現在では機械化やピニールハウス等により様変わりしてしまいました。脱穀した籾殻を一昼夜掛けて炭化し苗代の籾種の上に真っ黒な籾殻を播いて土壌の改良や苗代の表面の温度を高くし稲の苗の育ちを良くしていました。籾殻を炭化する時、親に隠れてこっそり作った焼き芋の味は少年時代の懐かしい思い出です。

戦後の昭和・平成は、敗戦の衝撃から水田稲作によって2千年以上掛けて醸成された「利他」という伝統的価値観より物質的豊かさを追求し、そのツケにより令和の今新型コロナウイルスに右往左往しています。新型コロナウイルスは高温多湿に弱いとも言われています。梅雨明けと共に終息してくれる僥倖を願うばかりです。食料の確保、電気・水・ガス等のライフラインの維持、ゴミの処理、物流、教育、防災、治安、国防等の社会基盤を支えている方々、医療・福祉の現場で懸命に戦っておられる関係者の献身的活動に感謝の誠を捧げます。そして不死鳥のように日本民族の心の中に生き残っていた「利他」の精神で忍耐強く自粛を継続している国民の姿に感動しています。